

## 2023 年度（対象年度：2022） 自己点検・評価シート

## 基準5 学生の受け入れ

## ■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

## &lt;前年度の伸長・改善計画&gt;

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
503①	全学的視点を含んだ大学院改革の推進

## &lt;前年度の評価結果（課題事項）&gt;

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。 [第3期認証評価【改善課題】] 大学院修士・博士課程における定員未充足状態を改善することが求められる。【努力課題】 2021年度から開始された大学院奨学金制度について。今後、同制度による成果を点検・評価することが望まれる。【留意点】
--

## &lt;【参考】認証評価結果における指摘事項&gt;

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題 ・収容定員に対する在籍学生数比率について、法学研究科修士課程で0.38、経済学研究科修士課程で0.08、経営学研究科修士課程で0.17、同博士後期課程0.11、社会学研究科修士課程で0.40、理工学研究科博士後期課程で0.19、農学研究科修士課程で0.45、実践真宗学研究科修士課程で0.36と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。【改善課題】
---

## I. 自己点検・評価

## 1 自己点検・評価結果 &lt; 評定 &gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
503	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 ①収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 <学士課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰 又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	A

## 2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

503① 入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。

[学士課程]

学士課程での2022年度における全学部の平均値については、入学定員に対する入学者数の割合は「1.04」、収容定員に対する在籍者数の割合は「1.00」であった [503a]。入学者数については、公募推薦入試及び一般入学試験実施後に志願者動向等を部局長会に報告しており、適切な入学者数の受入れに努めている。

[大学院修士・博士後期課程]

2022年度の収容定員に対する在籍学生数比率は、修士課程において54%、博士後期課程においては46%となっており、依然として定員未充足の状態が続いている [503b]。

定員未充足状況の改善を含む抜本的な大学院改革の推進を図るべく、2017年度第2回全学教学政策会議（2017年9月28日開催）において、本会議で全学的な視点から本学大学院（各研究科）のあり方を検討し、必要な諸改革の実施に向けた改革方策等を提示するため、本会議の下に大学院改革委員会を設置した [503c]。大学院改革委員会において、①本学大学院の現状把握および分析等について②本学大学院のあり方や改革方策等について検討を行い、2018年度第7回全学教学政策会議（2019年3月22日開催）にて、「大学院改革に向けた検討について（報告）」について審議した [503d]。

2019年度は、上記の報告を踏まえ、大学院教学会議のもとに、大学院改革の推進のためのワーキンググループ（WG）を設置し [503e]、本WGで設定した各種検討課題を大学院教学会議で取りまとめ、全学教学政策会議においてその検討結果を報告し、大学院改革推進策を共有した [503f]。また、大学院奨学金制度の総括を実施するとともに、新たな大学院奨学金制度の在り方について検討を進めた。これにより、大学院学内進学奨励給付奨学金（予約採用型）の必要性を認識しつつも大学院生の研究活動への支援に重きを置いた、新たな大学院奨学金制度を設けることが大学院教学会議にて承認された [503g]。

2020年度には、研究科連携・研究所提供プログラムの開発（テーマ「環境」、「税務・税法」）、「キャリアパスの可視化」及び「留学生の募集活動及び学修環境の整備」について、大学院教学会議のもとに検討委員会やWGを設置し、関係部署と連携して報告を取りまとめ [503h]、「キャリアパスの可視化」については、2021年度には各研究科にキャリア担当の教員を配置することとなった [503i]。

2021年度においても、研究科連携・研究所提供プログラムの開発（テーマ「環境」、「税務・税法」）などについても継続的に検討した。今後は、全学的な新たな視点によって、定員未充足をはじめとした様々な課題について検討していくこととなった [503j]。また、新たに設定された大学院奨学金制度についても運用を開始し、大学院教学会議にて給付者の単位修得状況や研究活動内容・成果の報告を行っている [503k]。

また、2022年度には、全学教学政策会議の下に大学院充実策検討委員会を設置し、年度内には全5回の委員会を開催し、大学院充実にかかる政策を検討したほか [503l]、2回の学長会懇談会を開催し、大学院政策にかかる課題整理と検討の方向性等について意見交換を行った [503m]。大学院充実策検討委員会での検討結果については、大学院教学会議および全学教学政策会議にて報告した [503n]。

以上のことから、学生の受け入れについて適切に取り組んでいると評価する。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》*伸長すべき点、改善すべき点	
503①	定員管理の改善を踏まえた大学院改革
項目 No.	

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
503①	[大学院修士・博士後期課程]

全学教学政策会議の下に大学院充実策検討委員会を設置し、年度内には全5回の委員会を開催し、大学院充実にかかる政策を検討したほか、2回の学長会懇談会を開催し、大学院政策にかかる課題整理と検討の方向性等について意見交換を行った。大学院充実策検討委員会での検討結果については、大学院教学会議および全学教学政策会議にて報告した。また、2021年度から運用を開始した大学院奨学金制度については、大学院教学会議にて給付者の単位修得状況や研究活動内容・成果の報告を行い、点検・評価を行っている。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策 (到達目標を含む)
503①	全学的視点を含んだ大学院改革の推進

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
503	a	学校法人実態調査 (令和4年度) <抜粋>
503	b	修士課程・博士後期課程 収容定員充足状況 推移 (2018年度～2022年度)
503	c	大学院改革委員会の設置について (提案)
503	d	(2018年度) 大学院改革に向けた検討について (報告)
503	e	大学院改革の推進について (提案)
503	f	(2019年度) 大学院改革の推進について (報告)
503	g	新たな大学院奨学金制度について (提案)
503	h	2020年度における大学院改革の推進について (報告)
503	i	大学院キャリア担当の選出について (提案)
503	j	今後の大学院改革の推進について (報告) (2021年度第6回全学教学政策会議資料)
503	k	大学院成績優秀者給付奨学金・研究活動支援給付奨学金給付状況等報告 ※一部抜粋
503	l	2022年度大学院充実策検討委員会開催案内
503	m	2022年度学長会懇談会記録
503	n	2022年度第12回大学院教学会議次第および2022年度第4回全学教学政策会議次第

II. 評価結果

総評
<p>503①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学士課程は、入学定員・収容定員ともに適切な管理ができていると評価できる。</li> <li>・ 大学院修士課程・博士後期課程は、入学定員・収容定員ともに依然として未充足状態が続いている。</li> <li>・ 2022年度には、全学教学政策会議の下に大学院充実策検討委員会を設置し、全5回の委員会を開催し、大学院充実にかかる政策を検討したほか、2回の学長会懇談会を開催し、大学院政策にかかる課題整理と検討の方向性等について意見交換を行った。</li> </ul> <p>現在進行中の大学院改革の検討が抜本的な大学院教育の組織再編につながることを期待したい。また、2021年度から運用が開始された大学院奨学金制度による成果を点検・評価することが望まれる。</p>
長所・特色《箇条書き》
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の大学院改革については、定員未充足の解消をはじめ、様々な課題について改めて検討することを予定している。これまでも様々な取り組みを検討・実施されているが、引き続き大学院改革を進めることが期待される。</li> </ul>
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

・ [第3期認証評価【改善課題】]

大学院修士・博士後期課程における定員未充足状態を改善することが求められる。【努力課題】

・2021年度から開始された大学院奨学金制度について、今後、同制度による成果を点検・評価することが望まれる。【留意点】